A． 対象装置（機種），対象機器

対象装置（機種）、対象機器は下記の通りです。

1． 対象装置（機種）

MAS-801HR，MAS-8000，MAS-1800，APT-4800
※トランクケース仕様も含む。

2． 対象機器

下記に示す項目を組み合わせた機器がが対象になります。
（１）富士通（株）プラズマモニタFTE8050BP　←以下、PDPモニタと言う。
（２）富士通（株）プラズマインターフェース基板FPF04A-NB（N320-5209-T052/03）
→ 以下、FPF04A-NB基板と言う。
（３）Carroll Touch社インターフェース基板Part NO．01-5002-1230 REV.A
→ 以下、キャロルタッチ制御基板と言う。

注意点
PDPモニタのプラズマモニタ用電源（FPF04P-AC100T，FPF07P-AC100Aなど。）は、
10.4型互換モニタX7104AL-R2（以下、互換モニタと言う。）に交換することにより不要となります。
ただ、プラズマモニタ用電源の出力端子（+5VDC）がSVC DSPREV基板5085B9106Bなどに接続されていることが有りますので、プラズマモニタ用電源の出力端子の接続先をご確認ください。

B． モニタの交換方法

下記の手順にて既存モニタを10.4型互換モニタX7104AL-R2（以下、互換モニタと言う。）に交換してください。

1． 既存モニタの構成

既存モニタのは、図１．に示す構成機器により構成されています。
なお、ベゼル（黒い樹脂部分）とキャロルタッチ用センサ基板（赤外線センサ基板）は、一体構造になっています。

正面図

背面図

図１．　既存モニタの構成機器

2．　既存モニタの取り外し

図２．に示す既存モニタから既存のコネクタ①から③を引き、装置本体から既存モニタを取り外します。

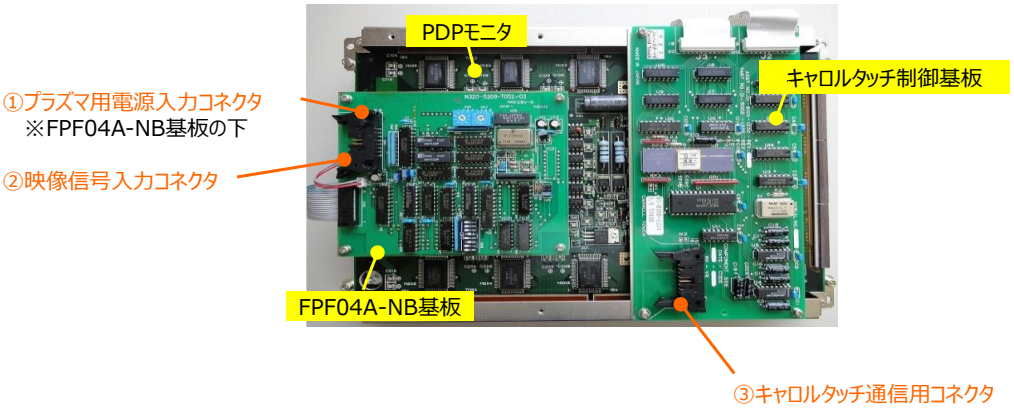


図２．　既存モニタの構成機器

3．　テープ電線，キャロルタッチ制御基板の取り外し

既存モニタから図３．に示すテープ電線（２本），キャロルタッチ制御基板（赤外線センサの基板）を取り外してください。
テープ電線は、キャロルタッチ制御基板のコネクタ側だけを引き抜いてください。

注意：　取り外したテープ電線は、折れ曲がった部分を延ばすと断線しますので廃棄してください。
補足：　交換用のテープ電線は、互換モニタに新品のテープ電線（４本）が同梱して有ります。

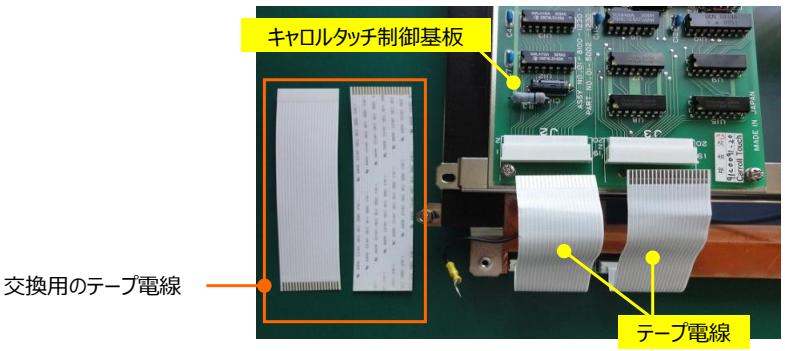
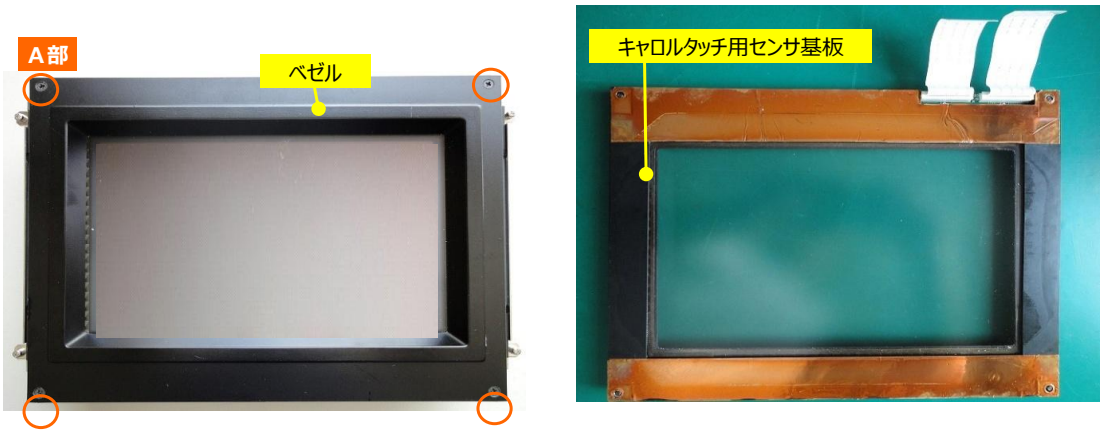


図３．　テープ電線の状態

4．　ベゼル，キャロルタッチ用センサ基板の取り外し

図４．に示す**A部**の皿ネジ（４本）を取り外し、
既存モニタからベゼル（黒い樹脂部分），キャロルタッチ用センサ基板（赤外線センサの基板）を取り外してください。
なお、取り外した皿ネジ（４本）は、取り付け時に使いますので、保管しておいてください。



正面図　　背面図

図４．　ベゼル，キャロルタッチ用センサ基板

5．　テープ電線の交換作業

図５．に示すテープ電線を互換モニタに同梱してある新品のテープ電線（２本とも）に交換してください。
注意：　テープ戦線は、両端の接続面に方向性が有りますので、方向に注意して接続してください

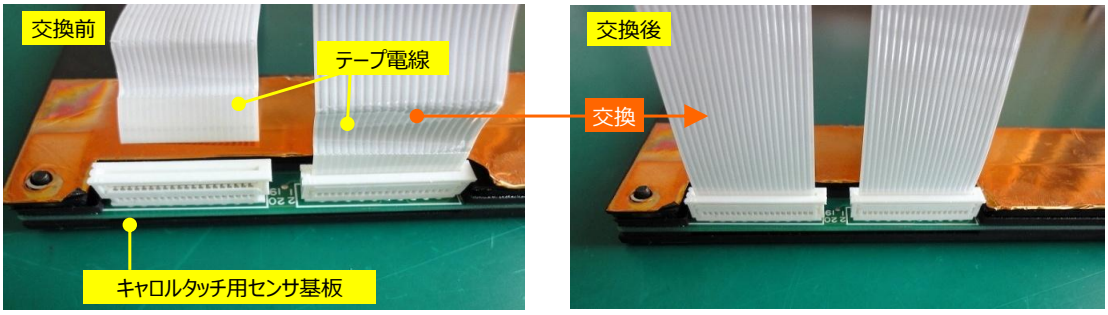


図５．　テープ電線の接続状態

6．　ベゼル，キャロルタッチ用センサ基板の取り付け

図６．に示す互換モニタの保護シートを剥がします。
次に、ベゼル，キャロルタッチ用センサ基板を図６．に示す**Ｂ部**の取り付け穴に合わせ、皿ネジ（４本）にて固定します。
この皿ネジは、４．項にて取り外した皿ネジ（図４．を参照のこと）を使います。

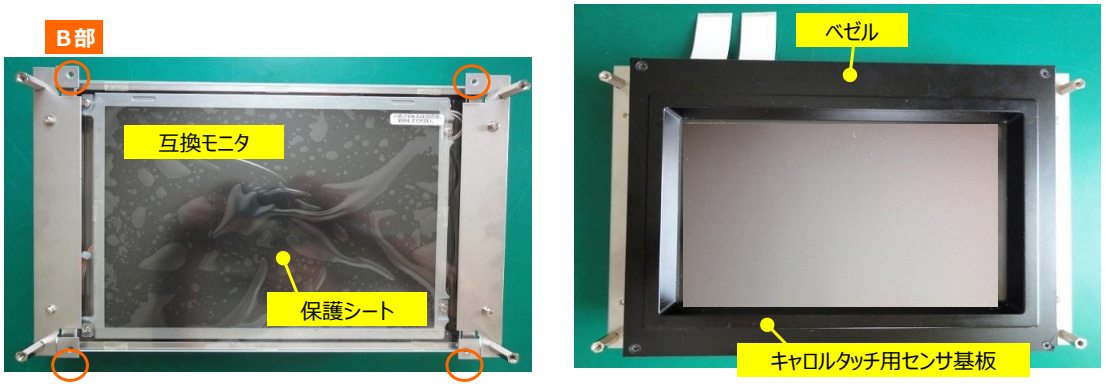


図６．　互換モニタの正面図

7．　キャロルタッチ制御基板の取り付け、テープ電線の接続

キャロルタッチ制御基板を図７．に示す**Ｃ部**の取り付け穴に合わせ、ナベネジ（３本）とトラスネジ（１本）にて固定します。
トラスネジは、図７．に示す**Ｄ部**のみに使用します。
キャロルタッチ制御基板の固定後、テープ電線を接続してください。

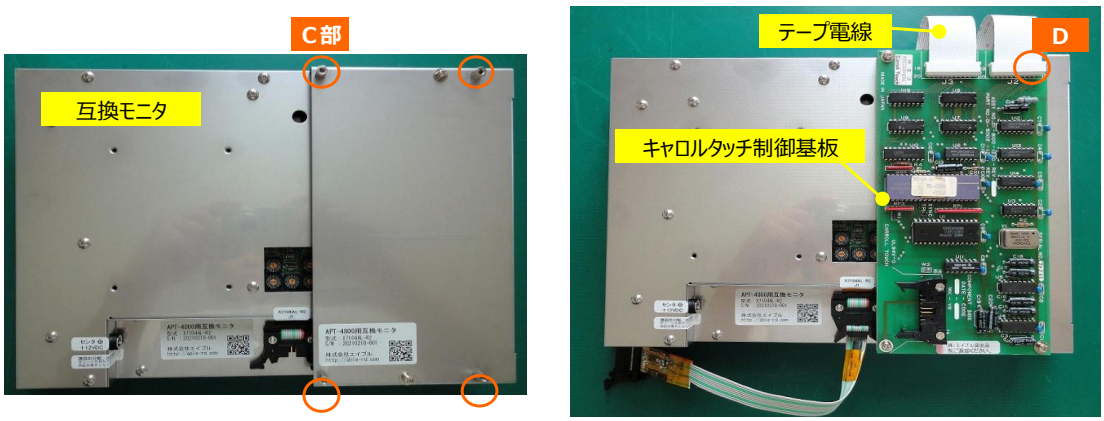


図７．　互換モニタの背面図

８．　映像用ケーブル，キャロルタッチ用ケーブルの接続

既存モニタに接続されていた映像用ケーブル，キャロルタッチ用ケーブルを図８．に示す互換モニタに接続してください。

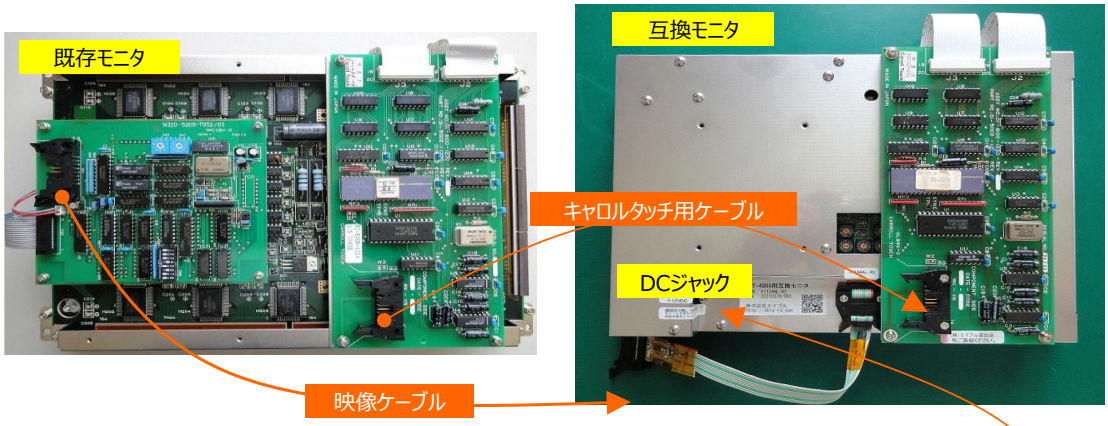


図８．　互換モニタの接続図

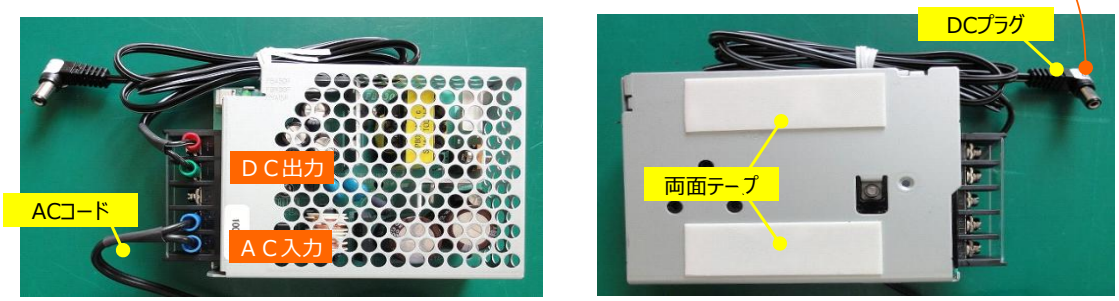


図９．　AC電源Ass'yの外観図

９．　AC電源Ass'yの接続，設置

AC電源Ass'yは、下記の通り接続してください。
ＤＣ出力　･･･図９．に示すＤＣプラグ（センタ ＋12VDC）を互換モニタのDCジャックに接続してください。
ＡＣ入力　･･･図９．に示すACコードを装置側のAC100Vに接続してください。

AC電源Ass'yは、適切な位置に設置、背面の両面テープを剥がし固定してください。

１０．　互換モニタの固定方法

互換モニタの取付けピッチは、既存モニタと同一寸法です。
互換モニタを装置本体に取付ける際は、
図１０．に示すＥ部の六角スペーサ（４本）の位置と装置側の取付け穴を合わせ、固定してください。
六角スペーサ（４本）の取付け位置は、六角スペーサを固定しているナベネジ（裏側）を緩めれば位置調整が可能です。

注意：　出荷時は、六角スペーサ（４本）を緩めに固定していますので、装置本体に取り付ける際は増し締めをしてください。

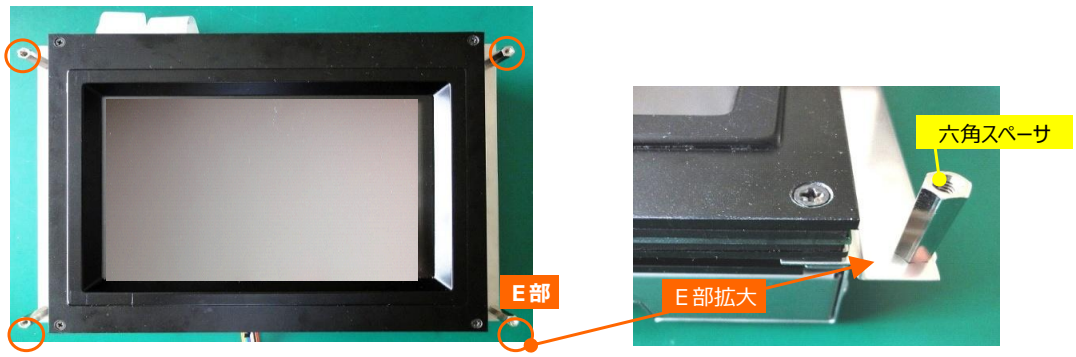


図１０．　互換モニタの固定方法

以上、互換モニタの交換作業は終了です。